



彼理日本紀行

第十四卷
全拾巻本

洋学文庫
文庫8
C 235
11



彼理日本紀行

卷二十四



Faint vertical text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.



彼理日本紀行卷之二十四

手塚律藏譯

彼理箱館ヨリ再ニ下田ニ至ル事先ニ彼理
下田ヨリ本国へ帰帆ノ事

斯クテ提督彼理箱館港ニ到着シテ五月十九日
ニ至リケレハ此日午後ニ提督ハホ^リハタニ船
ヨリ^リミスシツピ^リ船ニ乗リ移リテ松前勅解由
ヲ此船中ニ請シタリ此勅解由ト云者トハ元来
松前候ノ一族ニシテ此度松前公ノ命ヲ受ケテ
臣人ト應接セシカ為ニ箱館奉行遠藤松左工門



漢語通辨官伊須賀權藏等ヲ携ヘテ我カ船中ニ
来レリ扱西国人通例ノ族扱終リテ後提督問テ
曰ク松前候ハ未以地ニ到着セサルカト勘解由
答テ曰ク我カ君松前候ハ松前ノ城ニ居リ隈リ
ニ奉勤シ難シ以地ニ至ラシトハ未知ルヘカラ
スト提督又曰ク松前候若以地ニ来ルト能ハサ
ル時ハ吾等直チニ松前ニ赴キ其侯ニ謁シテ諸
莫ヲ論定スヘシ以地ニハ共ニ大事ヲ議スヘキ
ノ官吏ナシト是ニ於テ日本人ノ曰ク松前候ニ
於テハ隈リニ其居城ヲ離ル、ト能ハサルノ間

以度其名代トシテ公族ノ高官人ヲ以地ニ遣ハ
サレタルナリ且開港ノトハ今一年ヲ経テ始ム
ルトナレハ今以度ニ付キテ其方ヨリ議論スル
トモ我等ニ於テハ速カニ其トヲ決シ難シト提
督又曰ク高船ニ関係セル事件ハ免モ角モ我等
此度日本江来リ江戸ニ於テ高官人ト會議ノ上
取極メタルトアリコレニ依テ其諸件ヲ公等ト
再ニ談合セント欲スルナリト勘解由答テ曰ク
我カ君候ナラヒニ我等ハ唯我等領内ノトノミ
ヲ裁決スルヲ得ルト云トモ外国ニ関係セル皇

大ノ夏件ハ皆江戸府ノ命ヲ受ケサル内ハ何夏
モ取極ムルヲ能ハスト是ニテ此日ノ應接ハ終
リケリ新クテ兩國人ノ會話終リケレハ日本人
船中ヨリ陸上ニ歸ラントセシ時ニ海風忽チ吹
来リテ波浪坐来ニ荒ミシク其舳逆モ小舟ノ上
陸ハ出来ヘクモ見ヘサリケレハ勅解由等皆暫
ミスシツピル船ニ留リ居タリ此間日本人等ハ
蒸氣ノ諸機及船中ノ諸珍物ヲ見テ其心ヲ慰メ
タリシヲ又臣人酒食ヲ以テコレヲ饗應セリ新
カル間ニ風波モ漸クニ沈マリテ海上稍穏カニ

ナリケレハ日本人等皆海岸ノ方ヘト退去セリ
○翌五月十日提督ソトハントン船ヲホルカノ
湾及ヒエンデルモ港ニ遣ハシテ其形勢ヲ吟味
セシメタリホルカノ湾及ヒエンデルモ港ハ蝦
夷島ノ東南隅ニアリテ箱館ヲ去ルヲ大約七十
里許ナリ叔ソトハントン船此日箱館港ヲ去シ
昼後第五時ホルカノ湾ノ南岬ニ近付キタリ時
ニ海上風定ウテ浪静カナリケル故ニソトハン
トンハ急ニ其湾内ニ入ルヲ要セス漸クニ其
辺ヲ測量シテ其翌朝迄ハ遂ニ湾内ニ入ラサリ

ケリ既ニシテ天気モ悪クナリケレハ「ソーハン
ト」船「エ」ンデルモ港ニ入ラントテ海岸ニ近付
ク「フ」ニ里ハカリニシテ漕行キケルニ烟霧益深
クシテ其辺ノ様子ヲ分ツ「フ」能ハス「エ」ンデルモ
港ニ入ルノ船路モ見ヘサリケリ然レトモ「ソー
ハ」ント「シ」船ハ海岸ニ沿「フ」テ進ミ行キ行、浅深ヲ
測量シテ日暮ニ至リ遂ニ海岸ノ小村ニ対シテ
碇泊スル「フ」ヲ得タリ斯クテ夜ニ入りケレハ天
忽暗レテ海上分明ニ見ヘ渡リ我カ船ヨリ三里
ハカリ距リテ海岸ナル一大村ノ近辺ニ日本ノ

高船数艘碇泊シ居ルヲ見タリ然ルニ雲霧又忽
合シテ東南ノ風烈シク吹き来リ五月二十七日
ニ至ル迄遠ニ吹所ヲ出ル「フ」能ハサリケリ斯ク
テ次日大陽ノ昇ルニ從テ雲霧漸クニ散シケレ
ハ「ソー」ハント「シ」其小舟ヲ出シテ海岸ヲ去ル「フ」
一里半可ナル五尋可ノ深サノ處迄測量セシメ
其ヨリ「ソー」ハント「シ」ハ東岸ニ向テ漕出タルニ
好風景ノ處ニ至リケレハ諸人船中ヨリ眸ヲ凝
ラシ陸上ヲ眺望セシニ其地勢海濱ヨリ漸クニ
陸内ノ方江高クシテ大嶽ニ接シ草木青々トシ

テ其間ニ黄紅ノ色ナル木葉ヲ交へ又其近辺ニ
村落アリ流水アリテ其好景實ニ画モ如カサル
ノ躰ニソ見へニケル其ヨリソトハントン東行
シテ遂ニホルカノ湾ニ入ルノ船路ヲ見出シ漸
クニ進ミテコレニ近寄りケレハ忽以湾中ヲ一
望ニ見渡ス一ヲ得ルノ處ニ至レリ又以湾ノ周
圍ハ皆ミ高山ニシテ海岸ニ陵夷シ其絶頂ニ皆
白雪ヲ留メテ寒光猶凜ミタリ又以湾ノ東北ニ
二ノ嶺火山アリテ常ニ其頂ヨリ烟氣ヲ吐キ若
以烟氣風ニ靡ク時ハ其烟氣山頭ノ白雪ヲ覆ヒ

テ烟雲共ニ日光ヲ帯ヒ烟ハ金光ノ如ク雪ハ銀
色ノ如シ是實ニ湾中ノ一好景ナリ扱爰ニ一小
島アリ以島ハ我國ノ船將官「ブロートン」ノ麾下
ニ「ラツツ」ト云ヘル者アリケルニ以者死シ
タリケレハ以島ニ葬リタル故ニ以島ヲ名ツケ
テ「ラツツ」島ト云ヘリ斯クテ「ソ」ハントン
船以島ヲ余所ニ見テ「エ」ンデルモ海峡ニ入り以
日夕刺ニ及ヒ陸地ニ近寄りテ碇泊セリ以陸上
ニハ人家数軒アリテ屋ヲ連子又丘陵ノ上ニハ
堡壘ノ如キ物ヲ築キタリ時ニ「ソ」ハントン船

此處ニ碇泊セシカハ忽日本ノ官吏ニ入小舟ニ
乘リ毘夷人ヲシテ其舟ヲ盪サシメテ我カ船ニ
近付キ薪一本米一袋ヲ持来リ且海水ヲ指シテ
巫人ニ謂テ船中ニテ此三物ニ不足ナキカト云
ヘリ此日本人等ハ通例ノ日本服ヲ着シテ又其
上ニ紅色ニメ縫箔セル羽織ヲ着セリ此服ハ日
本ニテ軍陣ノ服ナリト見ユ又此日本人ハ我等
ニ親切ヲ尽スノ様子ニモ見ヘサリケレトモ船
中ニテ野菜魚類鶏卵雞等入用ノ旨ヲ解シテ忽
人ヲ陸上ニ遣シテ其諸物ノ有ルカ無キカヲ搜

ラシメタリシニ暫アリテ小舟海岸ヨリ馳セ帰
リ巫人ニ向ヒテ折悪シク此頃ハ天氣善カラサ
ル故陸上ニハ魚類絶テコレナク唯雞三羽アル
ノミナリト告ケ又此外ニ大黃ノ如キ野菜一種
ヲ持来レリ斯クテ又翌朝ニ至リケレハソトハ
ントン船ノ船將官^{ボール}此港内ノ測量ヲ始メ
其ヨリ此港内ニ滞留中ハ絶ヘス測量ノ度ヲ務
メタリ叔此地ハ元来陸上ヨリ食物ヲ得ル^トハ
甚クナク唯海中ヨリ多ク魚ヲ取りテ以テ食物
ニ供スルナリ又此地ニ居住スル者ハ過半^ア子

スレ人ニシテ此度我カ船此處ニ来リタレハ土人
等コレヲ見テ大ニ驚怖シ皆其居處ヲ棄テ、山
中杯江立退キタルト見ヘタリ又此地ニ居レル
一兩輩ノ官吏等ハ日々我カ船中ニ来リテ相互
ニ深ク交ハリタリ去程ニ我カ船此港内ニ滞留
セルノ間ハ何ノ変莫モ無カリシカ唯アル夜ノ
莫ナリケルニ初メノ程ハ火山ナリト見知ラサ
リシ山ヨリ急ニ火氣ヲ吹き出シテ暗黒ノ夜ハ
忽ニ白昼ノ如クニナリタルトアリ此處ニハ三
ノ火山アリニ山ハ唯烟氣ヲ吐クノミニシテ一

山ハ火氣ヲ吹き出セリ又船將ボール此港ヲ出
帆スルノ前ニ此港口ナルヲラツソシ島ヲ訪ヒ
テ船將官グロートンカ水夫ノ墓ヲ見舞ヒタル
ニ此水夫ヲ葬リタルハ大約今ヨリ七十年前ノ
トナリシヲ日本政府ニテ今ニ猶此墳墓ヲ存シ
土風ノ石碑ナトヲ立テ、是ニ佛語ヲ記シ置キ
タリ又ボール此港内ノ吟味十分ニ整ヒケレハ
ソトハントシ船ヲ指揮ノ下田港ニト出帆セリ
○然ルニ我カ提督ハ未箱館ニ滞居ノ其後復々
松前勅解由ト交接シ其翌日上陸メ松前ノ官吏

ト應接セリ此官吏ハ松前候ノ此地ニ来ルコト
能ハサルノ旨ヲ亞人ニ告ケンカ為メニ来レル
者ニシテ其来ルコト能ハストノ證書ヲ持参シ
テ我カ方ニ送レリコレニ由リテ提督松前ノ官
吏等ト應接ヲナシタレトモ遂ニ亞人箱館ノ地
ヲ步行スルノ限畧ヲ定ムルコト能ハサリシカ
ハ是ニ於テ提督此官人等ニ向ヒ然ラハ此度ハ
下田ニ赴キ高官人ト應接ノ上ニテコレヲ取極
ムヘシト云ヘリ○去程ニ亞人等ハ度々上陸シ
テ箱館ノ市中ナトヲ自由ニ徘徊セシニ日本ノ

商人等ト交リテ時ニハ不和ナルヲナトモ有リ
シカトモ其度ハ両国人談合ニテ内海ニ入り夫
ヨリ両国人遂ニ相親ニテ交接スルヲナリタ
リ日本ノ官吏等度ニ我カ船中ニ来リケレハ我
等アル時ハ是ニ午飲ナトヲ進メ饗應シタレハ
日本人等モ大ニ喜ヒ又アル時ニハ我等船中ノ
衆人モ音楽ヲ以テ日本人等ヲ樂マシメタルニ
日本人等大ニコレヲ悦ヒタリ又日本ノ官人等
屢々我カ船中ニ来リテ大砲彈丸及ヒ其他ノ兵
器ヲ見テ能々コレヲ吟味セリ扱我等是ヲ以テ

熟々考フルニ日本ニテハ其兵器未備ラスシテ
器械製造ノ術モ未巧ナラスト虽トモ今ヨリ外
国ト和親ヲ始メテ漸クニ諸国ノ交通ヲ盛ニシ
器械ノ術ニ通シ戦闘ノ技ニ達スル時ハ他日必
西洋ノ強国ト争端ヲ開カン又彼等我カ諸兵器
ヲ吟味スル跡ヲ見ルニ彼等必其内心ニ其自国
ノ兵器未整ハスシテ我カ国ノ武備ニ及ハサル
ヲ知レリト見ヘタリ又日本ノ是適用ト来レル
兵法并ニ其武備ト云ヘル者ハ實ニ兒戲ニ等シ
キ者ニシテ其兵法ニ據リ其武備ヲ用ヒテ以テ

戦ハ、百方ノ衆アリト虽トモ能ク何ヲ為シヤ
又日本人我カ船中ニ来リテ諸器ヲ吟味スルノ
時ニ當リ我等決シテコレヲ秘スルコトナク日
本人ヲシテ隨意ニコレヲ見ルヲ得セシメタル
ハ是全ク我等向後日本人ト永ク和交セント欲
スルノ一證ヲ示セルナリ○又提督亞国及ヒ西
洋諸国ノ舟船難風ニ逢ヒテ日本海ニ漂着セル
コトニ付キ其様子ヲ箱館ノ官吏ニ問ヒ尋子夕
ルニ箱館ノ官吏ヨリ其返書ヲ得タリ其返書ノ
旨ヲ以テ考フルニ是近我カ国ヨリ出帆セル船

船難風ニ逢ヒテ如何ニ漂流セシヤ何国ニ到着
セシヤ其行方ヲ知ラサル者数回アリシカ是皆
不幸ニシテ日本海岸ニ漂着シケルヲ日本人是
迄ノ不仁政ヲ以テ以テ漂客ヲ幽囚セル莫ニ相違
アラマシト思ハル其箱館官吏ヨリノ返書ニ曰
リ
ヲ^カカ^ル私^ハ北^シナ^シ三年ヨリ嘉永三年ニ至ルマテ
異船難風ニ逢ヒ我カ海岸ニ漂着セル者五艘
ナリ其船中ノ水夫ハ皆ユレヲ長寄ニ送り夫
ヨリ和蘭船ヲ以テソレニ其本国ニ護送セリ

故ニ當時ハ一人モ日本地ニ残り居ル者ナシ
千八百四十七年六月亞国ノ水夫七人小舟ニ
乗組ニテエト^ロプ海岸ニ漂着セリ同年同月
又亞国ノ水夫十三人三艘ノ小舟ニ乗リテ松
前ノ西地ナルエ^ラマ^チニ漂着セリ又千八百
四十九年三月亞人三人薩合連ノ南隅^カラ^フ
ト海岸ニ来レリ然レトモ此三人ハ此時早速
此處ヨリ帰去セリ又千八百五十年五月英吉
利船一艘蝦夷地マ^ビル^ノ沖ニ於テ破船シテ
三十二人上陸セル莫アリト

又提督難船漂客ノ一ニ付キテ日本ノ高官人ニ
其様子ヲ尋子タルヲアリシニ日本高官人ヨリ
返答ノ書アリ其文左ノ如シ

水師提督彼理公ニ呈スル書

兼テ公ヨリ申越サレタルニ大平洋支那海日
本海ヲ航行スル亞船其行衛相分ラス其舟人
水夫等生死ノ程相知レサル者コレアルノ旨
委細兼知セリ然レハ其方ノ大統領石等ノ者
兵ヲ憐ミ其行衛ヲ吟味セントテ軍艦ヲボル
子ヲ^ルホルモサ及ヒ他ノ諸島ニ遣ハシテコレ

ヲ探ラシメタル由仁政ノ良誠ニ感心セリコ
レニ依テ我等十年前ヨリ亞船ノ日本海ニ
漂着セル者ヲ左ニ示スヘシ叔千八百四十七
年ノ頃亞人松前領ノ地ニ漂着セル者アリシ
時ハコレヲ長崎港ニ護送シ和蘭船ヲ以テ其
人ヲ本国ニ送り歸サシメタリ又千八百四十
八年亞人松前ニ漂着セシモ亦長崎ニ送りテ
ルニ亞国ノ軍艦ブル船来リテ是ヲ伴ヒ
ナイ歸レリ又千八百五十年亞人及ヒ英人日
本近海ニテ難風ニ逢ヒ日本海岸ニ漂着セリ

此時モ亦コレヲ長寄ニ送り和蘭商船ヲ以テ
其本国ニ送り歸サシメタリ今爰ニ記セル三
ヶ条ノ外ニハ異船ノ日本ハ漂着セル者ナリ
且當時ニ至テハ其異人一人モ此地ニ残り居
タル者ナシ又是迄日本國ニ漂着セル異人ノ
姓名ヲハ精シク吟味ヲ遂ケサレハ今此處ニ
記ス一能ハス

日本高官人ノ命ヲ受ケテ森山栄之助コレ
ヲ書ス

去程ニ光陰流ル、カ如ク最早五月モ三十一日

ニ成リケレハ提督令ヲ下シテマセドニ一船
ヲ下田港ニ出帆セシメ「ハンダレ」一船ヲシテ支
那上海ニ牽向セシメタリケレハ「ハンダレ」一船
ハ「サンガル」海峡ヲ通行シテ日本ノ北海ニ舟路
ヲ取りマセドニ一船モ亦箱館港ヲ牽シテ下
田トト急キケリ然レトモ「ポ」ハ「タン」等ノ諸船
ハ猶箱館港ニ滞留セリ是日本ノ官人箱館ニテ
我カ提督ト應接センカ為ニ此度態々江戸表ヨ
リ此地ニ下向シテ迄々到着ノ由ニ付我カ提督
コレヲ待受ケテ其官人ト一會話ヲナサンカ為

ナリ新クテ五月モ既ニ過キテ六月トナリ亞人
箱館ノ滞留モ稍退屈ノ思ヲ生シケレハ六月十
五日ニハ此港ヲ出帆シテ下田ニ赴カント評議
一決シテ各々其用意ヲソナシニケル○六月朔
日ノ朝ニ日本官吏ヨリ和漢蘭ノ三文ニ認メタ
ル書簡我方ニ到来セリ其文ニ曰ク
日本官吏安間十之進平山健次郎等亞国ノ商
官人ニ會談セシメテ願フ抑我等ハ此度政府
ヨリカラフト行ノ命ヲ受ケ来リ且又貴国ノ
諸船箱館港ニ居ルヲ以テ我等箱館ノ地ニ過

テ官吏ヲ戒メ土人ヲ教ヘテ兩國和親ノ旨ヲ
示シ交換ノ際ニ於テ諸事錯繆ノ憂無カラシ
メンテテ謀ル然レハ我等カ長官既ニ船路ヨ
リカラフト一赴キタリ故ニ我等モ久シク箱
館ニ留マルヲ能ハス不日ニ道ヲ急キテ亦カ
ラフトニ赴クヘシコレニ依テ公等ト會談ス
ルハ今ヨリ三日ヲ以テ限リトセン
叔以書面ノ旨ニテ勸考スルニ此兩官人カラフ
ト一赴カン為ノ命ヲ受ケ来レル由ヲ申送りタ
レトモ是全ク左ニアリシ此官人等ハ亞人ト應

接ノ為ニ熊々此地ニ来レル者ナレトモカ^ラフ
ト行ノ復ヲ以テ會議ノ日ヲ短クシ諸夏ノ定論
決議ヲ避ケテ時日ヲ延列セント欲セルナラン
ト思ハル〇斯クテ提督属將官マント^ラ陸上ニ
遣ハシ安間平山ノ二人ヲ招キテコレヲボ^トハ
タシ船中ニ請セン^トヲ言シメタリケレハ二人
是ヲ兼諾セリ^ベント會合ノ時刻ヲ問ケレハ兩
人日中ヲ以テ答ヘタリ其時刻ニ及ヒケレハ^レ
ント提督ノ命ヲ受ケ小舟ニテ海岸ニ至リ小官
舎ニ入りテ兩官人ヲ迎シ為ニ来レル由ヲ告ケ

タルニ日本人コレニ答ヘテ兩官人ハ今少シク
休息シテ罷越スヘキノ間暫時ソレニ扣ハラル
ヘシトノ旨ヲ云ヘリ是ニ依テ^レベ^ト其意ニ任
セテ一時餘ホト扣ハ居タレハ日本ノ官人始メ
テ出来レルニ依リ^レベ^トハ此官人速カニ舟中
ニ入ルナラント思ヒシニ其官人又一舎ニ坐ラ
石ノ安閑トシテコトヲ急クノ躰モナク茶ヲ啜
リ煙草ヲ吃シテ慰メリ是ニ於テ大ニ望ヲ失ナ
ヒ最早舟中ニ入ルヘキノ旨ヲ促シケルニ其官
人敢テコレニ取合ハス又茶ナトヲ飲ミテ慰ミ

タリマント余リニ待カ子テ我カ小舟ヲ回サン
ト云ヒケル處ニ折ヨク其官人ノ待合セ居タル
同伴ノ人ト見テ所へ来リケレハ日本ノ官
人コレトトモニ速カニ小舟ニ入レリ時ニ「ミン
ト」西国人會合約定ノ刻限ヨリ其遅刻ニナリタ
ルヲ以テ只今ボ「ハ」タンへ参リテハ提督ハ面
會致ス、キヤ如何ナラント大ニ心ヲ痛シメタ
リ此時日本人「ベン」トニ向ヒ我等全ク同伴ノ者
共ヲ待合ハセタルヲ以テ斯ク遅刻セリト云へ
リ斯クテマ「ン」ト其小舟ニ日本人ヲ載セテ「ボ」

ハタンノ方へト漕キ行キケル途中ニテ提督ノ
使舟ニア「ハ」リ此使者「ベン」トニ語テ曰ク我カ提
督先刻ヨリ日本人ヲ請セント待懸ケタリトモ
其遅刻ノ甚シキヲ以テ提督最早コレヲ待難シ
トテ吾ヲ遣ハセリト其ヨリ此使者モ「マ」ントハ
共ニ歸リテ日本人遅参ノ由ヲ提督ニ告ケタリ
時ニ日本人モ遅参ノユトハ全ク餘ノ義ニ非ス
實ハ其方へ些少ノ贈物ヲ持参センカ為メニ其
物品ヲ束メサセタル間ニ因ラスモ大ニ時刻ヲ
費セルナリト語レリ是ニ於テ提督皆其日本人

ヲ提督官ノ室ニ誘ヒテコレヲ饗應セリ其ヨリ
西國人會話ニ及ヒケルニ日本人箱館ニ於テ臣
人歩行ノ限界ヲ定メシトテ我等ニテハ決論
ニ難シトノ旨ヲ云ヒケレハ提督モ強テ以テ
議論セス然ラハ以テ下田ニ往キ高官人ト議
論シテ決定スヘシト云ヘリ又以テ日ノ會話中ニ
提督日本人ニ語リテ箱館ノ官人等ハ諸君親切
ニ我等ヲ取扱ヒ我等誠ニ満足セリ然ルニ其居
民等ハ未我等ヲ疑ヒ居ルト見ヘ臣人ヲ見ル時
ハ皆其家室ニ入りテ其戸幕ヲ閉テ婦女子等ニ

至リテハ我等ヲ見レハ皆急キ逃竄レテ畏ルハ
ト甚シ是如何ナル故ナラント云ヒケレハ日本
人其返答ノ旨ヲ書面ニ認メテコレヲ送レリ其
文ニ曰ク

公等箱館市中ヲ徘徊スル時土人等皆其門戸
ヲ閉テ婦女子ハコレヲ避ケテ街路ニ居ラサ
ルトハ先達テ森山氏ヨリ横濱ニテ我カ国ノ
人民等ノ様子ヲ委細陳說セル通りノトナレ
ハ何トソ宜シク推察シ給ハルヘシ元來我カ
国民ノ風俗ハ外國ノ風ト雲泥ノ遠ヒアリテ

是近ハ外国人ニ交接セルトハ能テコレナク
其人物ヲ見ルモ始メテノトナレハ何分異人
ヲ見テ疑心ナキト能ハス公等以地ニ滞留ニ
付キ官府ヨリ命ヲ下シテ朝夕土人等ヲ教諭
スルト虽トモ猶未外国人ノ心ヲ信スルト能
ハスシテ公等ノ通行ノ時ハ門戸ヲ閉テコ
レヲ避クルナリ提督公モ宜ク勸ム見給ハル
ハシ初メ提督ヲ横濱ニ上陸シテ近辺ノ村落
等ヲ徘徊セラレシ時ハ我等モ提督公ニ附添
ヒテ逍遙セシニ諸村落ノ通行中ニ婦人等ヲ

見タルトハ實ニ稀ナリシニ非ヤ是皆婦女子
等外国人ヲ疑ヒ畏レテ逃竄レタルナリ其後
下田港ニ滞留セラレタル時ハ土地ノ婦人ヲ
見タルト多カルハシト虽トモ是ハ亞人下田
ニ滞留セルノ間時々上陸シテ処々ヲ通行セ
シ故ニ婦人杯モ遂ニ亞人ノ態ヲ見習ヒテコ
レニ驚駭スルトナク亞人ノ市中ヲ通行スル
トモコレヲ避ケサルニ至レルナリ然ルニ今
公等箱館ニ碇泊スルト日浅ク上陸徘徊ノト
モ未其度数ヲ重子サレハ土人等ノ亞人ヲ疑

と畏レテ婦女子ノ逃竄スルモ誠ニ左モ在ル
一キ更ナリ且箱館ハ都府ヲ去ルト甚タ遠ク
境土偏僻ニシテ人情頑愚ナリ其風習速ニ化
成シ難シ且又偏土ノ人民等ハ高貴ノ人ヲ視
ルニ習ハス昏吏ノ往來ニモ土人等皆是ヲ畏
レ我等カ如キ者ニ至テモ此地ヲ通行スル人
皆其道ヲ避ク況ヤ外国異様ノ人物未リテ此
市中ヲ通行スルニ於テヤ其是ヲ畏レ避ク
ル更誠ニ當然ノ理ナリ又此土人等ハ頑愚ナ
リト虽トモ其性ハ皆善ナリ決シテ惡心アル

ニ非ス亞人若善心ヲ以テコレニ交ラハ愚民
等モ必其懇誠ヲ致サン若夫レ是ニ遇スルニ
暴悪ヲ以テスル時ハ彼等必憤怒シテ鬪心ヲ
生セン公等宜シク是等ノ更ヲ察セラルヘシ
亜船箱館滞留ノ内ニ船中兩人ノ死者アリケレ
ハ船中ノ諸人皆コレカ為ニ悲哀ヲ致シ遂ニ日
本ノ地ヲ仮リテ其死者ヲ葬リタリ叔箱館官府
ニテ此兩人ノ葬地ヲ定メタルニ其地ハ市街ノ
東方ニ當リテ保牆ノ辺ナリ又此葬地ハ好風景
ノ地ニシテ此地ヨリ諸方ヲ眺望スル片ハ港内

ノ風色ハ勿論ノ丁サ^リンガル^ル海峡及其近辺ノ好
景皆一眼ノ中ニ入り来レリ叔^ク度^ク西人ヲ葬ムル
ニハ西国ノ官吏及ヒ水軍士等四艘ノ小舟ニ乘
リテ其尸ヲ護送シテ上陸ヲナシ法教ノ式ニ依
リテ葬礼ヲ整ヘ大鼓ヲ打鳴ラシ遂ニ葬地ニ至
リケレハ日本人モ西国ノ葬儀ヲ見ント欲シテ
多ク^ク^ク^ク^ク^ク^ク^ク集リ来レリ叔^ク度^ク時法師^シジヨ^ランス^カ耶
蘇ノ法ヲ以テ讀経セリ時ニ日本人等^シジヨ^ランス^カ
スカ^カ周囲ニ集リテ其僧衣ヲ見^シジヨ^ランス^カ法
師ナルヲ知レリ且又日本ニテハ元来耶蘇教ヲ

嫌フト聞シカトモ叔^ク度^ク日本人等ハ^シジヨ^ランス^カ
法師ナルヲ知リテ大ニ^シコレヲ尊敬セル^ル^ル^ル見
一タリ叔^ク度^ク西人ヲ日本ノ地ニ葬ル^ル^ル初ノヨ
リ弟四人目ニシテ是迄ハ皆耶蘇ノ法式ヲ以テ
葬埋ノ諸^ク^ク^ク^ク修行セシカトモ箱館ハ偏土ノ夏
ニモアレハ固陋ノ議論ヲ建テ、外国ノ法旨ヲ
拒カンモ計リ難キヲ以テ^シジヨ^ランス^カ叔^ク度^クヲ提
督ニ語り如何セント云ヒケレハ提督コノ由ヲ
聞キ猶已前ノ如ク諸^ク^ク^ク^ク耶蘇教ノ法ヲ以テ修行
セシ^テ決シテ仔細アルハカラストノ旨ヲ命シ

タリ是ニ由テ^リジョフンス提督ノ命ニ從ヒ諸夏
已前ノ如ク我カ法式ヲ以テ葬儀ヲ行ヒケルニ
日本人何ノ異論ヲモ申越サ、リケリ是ニ於テ
^リジョフンス^リ熟々日本ノ人情吏勢ヲ考ヘ今ヨリ
數年ヲ経ル時ハ耶蘇ノ教法自然ニ日本國ニ行
ハルヘシト思ヘリ^リジョフンス^リ日本ノ地ニ亞人
ヲ葬リシハ先弟一ニ横濱ニ葬リ弟二ニハ下田
ニ於テシ又此度ハ箱館ニ葬リタルニ毎時日本
人ハ我カ法教ヲ尊ヒテコレヲ嫌ヒ避クルノ態
ハ少シモナク殊ニ此度葬埋ノ時ニハ箱館ノ土

人等ハ葬地ニ来リテ其教法ヲ修スルヲ見物シ
^リジョフンス^リヲ呼ビテ日本語ニテ亞國ノ法度人
ヨ亞國ノ法度人ヨト云ヒ大ニ此法師ヲ尊敬セ
ル態ニ見ヘタリ又此度日本人亞人ノ為ニ扱ミ
タル箱館ノ墓所ハ是迄土人ノ墓所トナリ居タ
ル地處ニシテ此所ニ佛寺一舎アリ其周圍ハ皆
垣ヲ繞テシ其中ニ數言ノ佛語ヲ書記セル石碑
數多アリテ又此邊ニ我等前卷ニ説示シタル木
柱ノ間ニ鉄車輪ヲ校メル者アリ是ハ即チ此車
輪ヲ轉シテ以テ神佛ヲ拜スルノ具ナリ此時^リシ

ヨランス^ル此処ニ至リケレハ日本人アリテ其西
手ヲ合セ日本ニテ神佛ヲ拜スルノ躰ヲナシテ
ジヨランス^ルニ示シタリ又日本人^ルジヨランス^ルカ
持居タル法經ヲ指シテ其教書ナルコトヲ知リ
タル躰ニ見ヘタリ又ジヨランス^ル嘗テ佛堂ニ往
キタル^ルアリシニ時ニ日本人アリテ神佛ヲ拜
シ居タリジヨランス^ルコレヲ見ルニ其躰恰モ耶
蘇法院ノ如ク佛前ニ大ナル机ヲ置キ其上ニ二
箇ノ燭臺ヲ置キテ燭ヲ燈シ又造花ナト^ルモ置
キタリ其器物ハ何レモ鍍金セル物ニシテ皆花

麗ナリ又此大机ノ左右両側ニ二ノ小机ヲ置キ
テ其上ニモ燈燭アリ此処ニ五人ノ僧徒集リ居
リ其大机ノ前ニハ僧長コレニ坐シテ金ヲ打鳴
ラシ其餘ノ四人ハ本作ニテ漆ヲ塗リタル一器
物ヲ打居タルニ其音声甚聞苦シキ物ナリ斯ク
テ此僧等ハ皆声ヲ奏シテ其經文ヲ唱ヘタリ既
ニシテ此修夏終リケレハ一人ノ僧^ルジヨランス^ル
ニ近寄り佛像ヲ指シテ問テ曰ク亞国ニテハコ
レヲ何ト云フヤトジヨランス^ルコレニ答テ我カ
国ニハナシト云ヒケレハ其僧又机ヲ指シテ曰

ク亞国ニテハコレヲ何ト云フヤト時ニ^ジヨヲ
ンス又ナシト答ヘタリ其ヨリ^ジヨフランス^ス此佛
堂ヲ退出セントセシ時ニ一人ノ寺奴来リテ^ジ
ヨフランスニ問テ曰ク亞人モ亦神ヲ信スルヤト
^ジヨフランスコレニ答テ亞国ニ於テモ同様ノ
アリト云ヒ且夫ニ向ヒ大陽ヲ指シテ此大陽ヲ
祈ル由ヲ知ラセ又寺奴ニ問テ日本ニテモ此大
陽ヲ祈ルヤト云ヒケレハ寺奴是ニ答テ^ナ天
ルハヲ祈ルト云ヘリ^ナト云ヘルハ天ノ意ニ
シテ即神ノ意ナリ斯クテ亞人滞ナク葬埋ノ

ヲ終リケレハ是ヨリ兩三日ヲ経テ日本官舎ノ
命アリテ亞人ノ墳墓ノ辺ニ一ノ守舎ヲ置キタ
リ○去程ニ亞人日本ニ別ヲ告ケ互ニ其贈物ヲ
取替シテ箱館港ヲ出帆ノ用意ヲナシ千八百五
十四年六月三日ノ早朝ニ^ナポーハタン^スミ^ツ
ピ^ノ二艘港内ヲ出帆セシニ折シモ海霧深ク
シテ此港ヲ出ル^ル能ハス港口ニ碇ヲ投セルコ
ト再三ニシテ其船ヲ進メ兼子タルニ其海霧モ
漸クニ飛散シテ二艘ノ蒸気共ニ其碇ヲ上ケテ
港口ヲ出テ黄昏ニ^ナサンカル^ル海峡ヲ經過シ風ニ

隨ヒテ漸クニ下田ニ向ヒ六月五日ニ江戸湾ニ
近付タルニ天氣悪クナリ烟霧深ク結ヒ船行速
カニ進ムコト能ハス是ニ於テ亞船江戸湾ノ島
間ニ居テ烟霧ノ暗ルヲ待テタルニ烟霧速カ
ニ飛散セサリシ故ニ六月七日前ニハ下田港ニ
到着スルヲ能ハサリケリ然レトモ提督下田ニ
到着セシハ提督兼テ下田ノ高官人ト應接セシ
ト思ヒ定メシ日限ヨリ一日先ニ到着スルヲ
得タルニ斯クテ提督船中別糸ナク六月七日ノ
午後ニ遂ニ下田港ニ入津シ先達テ碇泊セシ處

ニ至リテ諸船各其碇錨ヲ投シタルニ時ニ我カ
シヤブレ船モ此港内ニ碇泊シ居タリケリ是ニ
於テ日本官吏ト舟ニ乘リ提督ノ船ニ乘リテ提
督ノ恙ナクシテ下田港ニ到着セルノ祝詞ヲ速
ニ一旦此度江戸表ヨリ二人ノ官人此地ニ来着シ
テ下田ノ官吏ニ負ヲ増シタル由ヲ語りケレハ
提督ユレヲ聞キ然ラハ會議ノ諸件モ自ラ速ニ
決着スル莫ヲ得ヘシトテ早速其屬官人ヲ海岸
ニ遣ハシ日本高官人ト應接ノ日限ヲ評定セシ
メタルニ日本人ハ明日午時ニ應接ニ及ントノ

返答ナリケレハ翌日提督其属官等ヲ引連レテ
上陸シケルニ日本ノ高官人出来リテ提督ニ通
例ノ挨拶ヲナシテ其ヨリ提督等ヲ宿寺ニ請レ
タリ其ヨリ此度新ニ増シタル下田官人ノ姓名
ヲ聞キケルニ一人ノ名ヲ都築駿河守ト云ヒ又
今一人ハ代官目付ニシテ竹内清太郎ト云ヒリ
叔高官人云ヒケルニ此度国王ヨリ伊沢養作守
都築駿河守ヲ下田ノ令尹ト定メ黒川嘉兵衛伊
勢新太郎ヲ其次官ト定メタリト又高官人ノ曰
ク下田邑ハ政府令尹ノ領地トナリタレハ土墻

ヲ築キ門戸ヲ造リテ以テ其境界ヲ定ムヘキ也
亞人此境界ヲ出入スル時ハ其旨一々コレヲ我
カ方ノ守吏ニ告ケテ而後ニ往来スヘシ此度提
督公ニ於テ如何ト勸考セラルハヤト提督ノ曰
ク亞人ニ於テハ童子ヲ定メタル七里内ノ地ヲ
自由ニ逍遙徘徊スルヲ得テ條約ノ旨ニ背クコ
トナクハ其他ハ何モ我等ニ於テ差障コレナシ
且此七里外ノ地ハ日本ノ政令ヲ以テ如何様ニ
是ヲ処置セララルトモ我等ニ於テハ少シモコ
レニ關係スルコトコレナシト是ニ於テ兩國ノ

官吏談合ノ上ニテ下田ノ境界ヲ定メ又下田ノ
土墻等ヲ亞人ノ見分セシ時ハ日本人コレヲ案
内ス一キ由ニ一決セリ又提督日本人ニ謂テ曰
ク七里内ノ地ハ亞人コレヲ自由勝手ニ步行徘徊
シテ門口ノ出入等ハ其時々ニコレヲ日本ノ
守吏ニ告ケシコトハ我等ノ欲セサル所ナリト
又次日ノ會話中ニ提督箱館ニ於テ亞人步行ノ
限界ヲ定メシトノ事ヲ云ヒケルニ日本人此時
亞人箱館ニ於テノ步行ハ唯其市中ニ限ル一ト
トノ由ヲ云ヒケレハ提督憤然トシテ直チニ其

説ヲ據ルニ此度ハ又後日ニ委シク議論セント
定メタリ又次日日本ノ高官人提督ニ向ヒ此度
亞人ノ墓所ヲ撰ヒタル故ニ先達テ横濱ニ葬リ
タル亞人ノ屍ヲ此度其墓所ニ改葬セリ此度宜
シク兼諾シ玉ハル一ト云ヒケレハ提督此度
ヲ許諾シ亞人ヲシテ其墓所ヲ檢セシメント約
シタリ斯レテ次日ノ會話終リテ又此翌日兩國人
會話アリ提督又箱館步行ノ限界ノ事ヲ論シタ
レトモ此日モ亦定論ナクシテ終リタリ時ニ提
督日本ノ高官人等ニ世界ノ形勢諸國ノ治乱等

ヲ語リケルト此高官人等モ合衆國ノ產物ナト
ヲ同ヒ且又支那ノ戦争ノ憂及ヒ魯西亞都兒格
ノ合戦ノ憂等ヲ同ヒ此日ハ西方熟談シテ大ニ
其心ヲ慰メタリ而シテ又此翌日モ應接アリケ
ルニ提督數度箱館歩行限界ノ憂ヲ論シタレト
モ此日モ遂ニ其憂ヲ定メ兼子タリ又日本人ヨ
リ西人此地ニ滯留ノ間夜行ヲ禁セントスルノ
旨ヲ云ヒタレトモ提督モ堅ク此憂ヲ兼諾セサ
リケリ○扱此度新ニ此地ニ来レル日本ノ高官
人ハ元来日本ノ金貨ト合衆國ノ金貨トヲ比較

シテ其平常ノ通價ヲ定メンカ為ニ此地ニ来レ
ルナレハ提督其属官「ポルセルスロスピーラン
」
名ユドライ^ン上ノ二人ヲ遣ハシテ日本人ト其
憂ヲ議セシメタリ○六月八日ヨリ同月十七日
ニ至ル迄西國人日ニ應接會議シテ諸憂ヲ論定
セリ此諸事件ハ即チ先達テ西國人取結ヒタル
條約ノ中ニ漏洩セル諸件ナリ然レハ此度西國
人會議シテ約定セル憂件ハ左ノ如シ

全權林大守頭井戸對馬守伊沢養作守都築駿
河守鶴殿民部少輔及ヒ竹内清太郎松崎滿太

郎等ト會議シ諸夏ヲ評決シテ先時條約ノ夏
件ヲ増補ス

第一章

一 下田村ノ境界ニモ土牆ヲ築キ門口ヲ設ケ守
吏ヲ置ク然レトモ亞人七里内歩行免許ノ地
ハ勝手ニコレヲ歩行シテ下田ノ門口ナトヲ
出入スルトモ守吏少シモコレヲ差支ユル
有ハカラス然リト虽トモ亞人若日本ノ政道
ニ背ケルコトアル時ハ日本官吏早速コレ
ヲ処置シテ其亞人ヲ船中ニ送り歸スニキ

エト

第二章

一 亞人小舟ヲ以テ上陸スニキ場所ハ三ヶ所ト
定ム其一ハ下田村ノ海岸ニアリ一ハ柿崎村
ノ海岸ニアリ又其一ハ正中島ノ東南ニ當レ
ル海岸ノ小池ノアル処是ナリ亞人宜シク決
定ヲ守リテ猥リニ他所ヨリ上陸スニカラス

第三章

一 亞人上陸ノ時其宿寺及ヒ商店等ノ外ハ猥リ
ニ入込ムニカラス陣営官舎等ニ堅ク乱入ス

ハカラサル度

第四章

一 下田ノ地ニ於テ追々亞人止宿ノ旅館ヲ取建
ル迄ハ下田ノ^リヨウセン寺及ヒ柿崎ノ^リヨク
セン寺ヲ以テ亞人ノ旅宿所ト定ムハシ

第五章

一 柿崎村^リヨクセン寺ノ側ニ亞国死者ノ葬地ヲ
撰ミ定メタル故ニ向後亞船ノ中ニ死者アラ
ハ坎地ニ葬埋セン^リ若シカラス

第六章

一 先達^テ横濱ニテ両国人會議セシ時日本高官
人箱館ニ於テ亞船ニ石炭ヲ給スハキノ旨ヲ
約定シタレ^ル右ノ度ハ日本ニ於テ甚々不便
ナル故ニ日本人右ノ度ヲ延引セント欲スル
ナリ是ニ依テ亞国水師提督官其跋ヲ本国ノ
政府^ニ告ケ日本人ノ望ニ任セント約セシ^レ度

第七章

一 向後両国人ノ交接ニ和蘭語通辨官ノナキ時
ニアラサルヨリハ漢字漢語ヲ以テ應接對談
等致スハカラサル^レ度

第第八章

一日本ニテ下田港内ノ様子ヲ明ニ知ラントナ
ラハ舟人三人ヲ捉ミテ亞船ノ案内者ト定ム
ル也

第第九章

一亞人下田市中ニ於テ物品ヲ買ハント欲スル
時ハ其人買ハント欲スル物品ニ自分ノ名ヲ
記シコレヲ官舎ニ持参シテ官吏ノ吟味ヲ受
ケ官吏ノ前ニ於テ其物價ノ金錢ヲ拂ヒ而後
ニ其物品ヲ持去ルニ返令如何様所望ノ物

品アルトモ此法ニ背キテ私ニハコレヲ賣買
スハカラサル也

第十章

一亞人猥リニ下田ノ近辺ニ遊獵シ鉄砲ヲ以テ
禽獸ヲ射取ルハカラサル也

第十一章

一箱館ニ於テ亞人歩行ノ限界ハ五里諸方ト定
ム五里ノ内ハ亞人勝手ニコレヲ徘徊逍遙ス
ハシ然レトモ又若亞人日本ノ法禁ニ觸ルハ
時ハ此第一章ニ論シタルカ如ク致スハキ也

第十二章

一 此度西國人會議シテ先達テ取結ヒタル條約ノ外ニ此諸件ヲ取定メタルノ間西國人宜シク此諸條ヲ守リテ互ニ其交接ヲ全クスヘキ
夏

右ノ諸約定ハ先達テ横濱ニ於テ取結ヒタル條約トハ別端ニシテ亦西國人ノ一條約ナレハ
實ニ輕卒ニスヘキ者ニ非ス故ニ此夏件ヲ和文英文ノ二通ニ認メテ兩國ノ官人コレニ押印シ又コレニ蘭文ノ一通ヲ添テ其參考ニ備

一 西國人互ニコレヲ取替ハシテ其夏ヲ約スル者ナリ
一千八百五十四年六月十七日日本下田ニ於テコレヲ書ス
合衆國水師提督兼日本使節彼理叔此度提督此新條約ノ諸夏ヲ定ムルニハ日本官人ト數度ノ會議ヲナシ種々ノ討論ヲ經テ漸クコレヲ成就セリ中ニモ下田箱館ニ於テノ步行ノ限界ヲ定メ其限界ハ亞人自由勝手ニコレヲ往來セルヲ得ントノヲ定ムルニハ日本人

取分ケテ其議ヲ達致シ難論數回ニ及ヒテ初
ノテコレヲ取極ムルヲ得タル也叔日本人
議ヲ達致セル所以ヲ愿ヌルニ元來下田ノ地ハ
日本政府ヨリ直ニ支配セル處ニ非スシテ侯伯
カ或ハ一主宰ノ領處タリシト見ユ然ルヲ日
本政府ニテ其地ヲ改メ而後ニ諸夏ヲ評議セル
故ニ其決議斯ク達致セシト見ヘタリ叔以
論ノ時日本官人提督ニ向ヒテ亞人下田村ノ門
口ヲ出入スル時ハ何トソ其門者ニ告ケテ而後
ニ出入セラルヘシトノヲ頻リニ云ヒ出シタ

レトモ提督ハ七里ノ内ヲ自由ニ往來スル莫
ハサル時ハ深ク條約ノ本意ニ背クト云フヲ以
テ遂ニ日本人ノ説ヲ攘斥セリ又箱館ノ地亞人
歩行限取ノ一ニ付日本人最初ニハ亞人ノ歩行
ハ唯箱館ノ市中ニ限ルヘシト云ヘリ時ニ提督
早速ニ其言ヲ攘キタレハ其次ニハ日本人然ラ
ハ箱館半島半島トハ其周圍水ヲ帶ヒテ島嶼ノ
狀ノ如ク唯其一方陸地ニ接シテ
全ク島嶼ニモアラノ全地ニ限ラント云ヒケル
サレラ云フ
ヲ又提督ノ為ニ其言ヲ破ラレタレハ日本人然
ラハ三里半諸方ノ地ト定メント云ヘリ然レハ

日本人ノ以て議論ヲ見ルニ敗軍ノ將其寸分ノ地
ヲ各惜シテ直ニ退クヲ能ハス処々ニ防戦シ
テ益自其兵力ヲ損スルカ如シ其ヨリ提督日本
人ニ向ヒ箱館歩行ノ限界モ亦下田ノ例ニ随テ
コレヲ定メント云ケレハ日本人コレヲ聞テ箱
館ノ地ハ下田ト遠ヒ山岳多クシテ人少ナク故
障ノ憂コレアルニ由テ下田ノ如ク亞人歩行ノ
限界ヲ廣フスルヲ能ハス故ニ箱館ニ於テハ五
里諸方ノ内ト定ムヘシト云ヘリ○昔時^{ハル}葡萄^ガ牙^ル
人ノ耶蘇教ヲ奉スル者アリ日本ニ来リテ福乱

ヲ謀レリ故ヲ以テ日本人異客ノ来リテ復々以
拳ヲナサン^トヲ畏ル是ヲ以テ考フルニ今日本
人箱館ニ於テ亞人歩行ノ限界ヲ廣フセサルハ
是全ク箱館ノ近辺ハ山多ク人稀ニメ外国人或
ハ其陰謀ヲナスノ便ヲ得ル^モア^ラント恐々
ルニ相遠ナシ○日本人ヨリ其国産ノ石炭ヲ持
来リテ我カ船中ニ与ヘタリ是ニ於テ其石炭ヲ
船中蒸気機ノ入用ニ供メ其品類ノ善悪ヲ試験
セシメタルニ蒸気ヲ主トル者是ヲ試験ノ日本
ノ石炭ハ蒸気ヲ十分ニ發揚スルヲ能ハスト云

又ポルモサノ石炭ハ其燃勢熾ニシテ其灰ヲ
 残ス₁甚少ナク日本ノ石炭ハ其灰ヲ残ス₁

日本ノ石炭

ホルモサノ石炭

甚々多シ察スルニ日本ノ石炭ハ是石炭坑ノ
表面ノ者ナル莫疑ナシ其石炭坑ヲ穿テ漸ク
ニ深キ処ニ至ラハ其坑中ニハ此品種ヨリモ
善キ石炭アラシト必定ナルトシト察セラル
、ナリ

匠夫官

エーッハッゲ

同

ウイレレム。エ。ブレツト

ニウ。ヨルカ海軍所總督アブラハム。ビ

ダロリ江

叔以度日本人ノ我カ船中ニ送リタル石炭ハ其

品種實ニ善カラス今此ノ如キ石炭ヲ送レルハ
日本人ノ惡心アリテ我カ方ニ其善ナル者ヲ与
フルヲ欲セサル故カ又ハ日本人ノ石炭ヲ吟味
スルト拙クシテ斯カル石炭ヲ送レルカ未其執
カ是ナルヲ知ラサルナリ日本ノ地ニ善キ石炭
産スルトノハ我等ノ素ヨリ聞ケル所ニシテ又
日本人和蘭ノ風。西執兒多ヨリ石炭ヲ取ルノ法
ヲ聞知リタル様子ナレトモ日本人ハ常ニ此石
炭ヲ以テ諸用ニ供セサレハ其善惡ヲ扱フコト
モ亦拙シト見エ故ニ此度モ其吟味ヲ善クセ

スシテ新ク悪シキ石炭ヲ我カ方ニ送レルナラ
ントモ思ハル先年我カ方レブル船長崎ニ至リ
シ時ニ日本人以船中ニ来リ船中ニテ石炭ヲ燃
キ居タルヲ見大ニ驚キテ其物名ヲ問ヒタル度
アリト云ハリ是ヲ以テ見ル片ハ日本人常ニ石
炭ヲ用ヒサルヲ明カナリ又以度日本ヨリ買調
ハタル石炭ハ其量一トニテ價二十八ドルヲ
ルナリケル故ニ其甚々高價ナル旨ヲ日本人ニ
申入レタルニ日本人ノ云ヒケルニ以石炭ハ亞
人所望ノ分量多クメ日本人コレヲ取ルノ労若

甚々シキヲ以テ是ヲ下直ニ賣ルヲ能ハス追々
ハ日本人石炭ヲ掘取ル術ニ長シテ容易ニコ
レヲ得ルニ至ラハ又別ニ其價ヲ諷スハシト云
ハリ叔日本ニハ石炭多クアリテ且美ナルヲ疑
ナシ然ル時ハ日本人我カ方ニ賣拂フニハ斯ク
高直ニセストモ宜シカルハキニ畢竟是日本人
奸猾ニシテ正直ナラサル処ヨリ斯ク方外ノ高
價ヲ以テ人ニ物品ヲ賣付クルナリ是等ノ処ヲ
以テ考フル片ハ是迄數回ノ應接ニモ日本人其
奸猾ヲ以テ我等ヲ欺罔セルヲ必多カラント思

ハル、ナリ。〇扱是近ニテ提督日本人ト諸吏ノ
 應接悉ク終リケレハ提督是ヨリ本国へ帰帆ス
 ルノ用意ヲナシ其属官ヲ遣ハシテ下田ノ官舎
 ニ至リ亞船滞泊中ニ日本ノ方ヨリ送ラレル諸
 買物ノ價ヲ問ハシメタルニ其物價ノ書記ハ左
 ノ如シ

亞船度下田港滞泊中ニ船中入用ノ為ニ日
 本人ヨリ買調ハタル諸品物ノ價ヲ以テ連書
 シテ向後日本海へ渡来セン諸船ノ心得ニ供
 スルナリ

下田港ニテ買調ハタル諸品物ノ價

一 薪 六トルラ^{七十五セント} 一 雞卵 ^{セニテ} 十^七セント

一 鶏 ^{志羽三付} 三十九^{セント} 一 魚 ^{志カッテニ付} 十一^{セント}半

一 クレ^{志尺ニ付} 魚三^{セント}半 一 同 魚 ^{志カッテニ付} 十一^{セント}半

一 菜 ^{志ヤキニ付} 十八^{セント} 一 大 根 ^{志ヤキニ付} 十二^{セント}半

一 芋 ^{志ヤキニ付} 三十八^{セント} 一 葱 ^{志ヤキニ付} 十^{セント}

以 壳セツキノ目方ハ英国^{ロエツセル}量ヨリ少シ

重シトス

一 圓長ノ材木 ^{長八十二^{センチ} 木口ノ徑一^{センチ}六^{インチ}余} 百八^{ドル}ラ^ル 三十^{セント}

一 同 ^{長五十^{センチ} 六^{インチ} 木口ノ徑八^{インチ}ナ} 二十七^{ドル}ラ^ル

一本 同
一本 同
一本 同
一本 同
一本 同
一本 同
一本 同
一本 同
一本 同
一本 同

長七十三「シ」七「イ」ンチ
 本口ノ徑「シ」二「イ」ンチ余
 長四十七「シ」三「イ」ンチ
 本口ノ徑八「イ」ンチ
 長五十二「シ」八「イ」ンチ
 本口ノ徑八「イ」ンチ
 長三十九「シ」六「イ」ンチ
 本口ノ徑六「イ」ンチ余
 長六十六「シ」
 本口ノ徑一「シ」一「イ」ンチ余
 長四十四「シ」
 本口ノ徑七「イ」ンチ余
 長四十九「シ」
 本口ノ徑八「イ」ンチ
 長四十六「シ」
 本口ノ徑七「イ」ンチ余
 長四十九「シ」五「イ」ンチ
 本口ノ徑一「シ」一「イ」ンチ余
 長三十三「シ」
 本口ノ徑四「イ」ンチ余

百七十六「ドル」ラ「ル」十「セント」ト
 二十五「ドル」ラ「ル」五「セント」ト
 二十七「ドル」ラ「ル」
 十「ドル」ラ「ル」四「セント」ト
 五十四「ドル」ラ「ル」四「セント」ト
 七「ドル」ラ「ル」八「セント」ト
 二十五「ドル」ラ「ル」五「セント」ト
 十三「ドル」ラ「ル」
 九十五「ドル」ラ「ル」二十「セント」ト
 七十二「ドル」ラ「ル」四十九「セント」ト

一本 同

長五十五「シ」
 本口ノ徑一「シ」二「イ」ンチ余

百六十三「ドル」ラ「ル」二十「セント」ト

此處ニ云ヘル「シ」トハ尺名ニシテ六「シ」ハ
 英國ノ五「フ」トニ同シキナリ
 本口ノ一「尺」ニ當

叔次材木ハ亞人初ノ下田ヨリ箱館ニ出帆スル
 ノ前ニコレヲ日本人ニ注文シ置キタルナレト
 モ此時ニ至テ日本人未其材木ヲ調達シテ我カ
 船中ニハ送ラサルナリ又亞人此度日本海ニ渡
 来セルノ印トシテ日本ノ國產物ヲ買調テコレ
 ヲ故郷ニ持参センカ為下田ニ於テ其物品ヲ買

調ハタルニ其物價殊ノ外ニ高カリケレハ提督
ヨリ改定ヲ日本ノ官人ニ告ケテ其物價ヲ減セ
ン定ヲ論セシメ且兼テ注文セル材木ノ定ヲ催
役セシメタレハ日本官人ヨリ森山栄之助ヲ遣
シテ其物價ノ定ヲ論セシメ兩國人改定ニ付キ
テ稍争論セシカトモ兩方何定モナリ遂ニ平穩
ニ定済シテ其ヨリ提督改定日本海渡来ノ印ニ
国父華盛頓ノ墓前ニ献セントテ日本高官人ニ
日本國産ノ石ヲ贈ラレタキ旨ヲ云ヒ送りケレ
ハ日本人早速ニコレヲ兼知セリ斯クテ亞船出

帆ノ日限モ近ニナリケレハ兩國日ニ會談シ
テ細々ノ定メ兩國人相互ニ贈物ヲ取替ハ
シテ帰帆ノ支度ヲハ急キケル改時日本ヨリ亞
國ハノ贈物ノ中ニ三匹ノ小犬アリシヲ提督改
小犬ヲ甚々是ヲ好受シテ其一匹ヲハコレヲ政
府ニ献シ自餘ノ二匹ヲハ以テ巴カ有トセリ○
提督ノ下田ヲ出帆スルノ前ニ森山栄之助等ノ
諸人ボトハタシ船ニ来リテ船中ニ居タル日本
出生ノ三八ト云ヘル者ヲ改定日本ノ留メ置カ
ルヘシトノヲ願ヒケレハ提督改由ヲ聞キテ

三八ハ元來日本人ノトナレハ是ヲ日本ニ留メ
ントモ何ノ仔細モ有ルヘカラス然レトモ日本
ノ政道ハ是迄其国人ノ漂流シテ一旦外国ニ入
レル者アレハ必ス是ヲ嚴科ニ処ス誠ニ不仁ノ
政ナリ夫レ此三八ナル者航海ノ時ニ難風ニ逢
ヒテ大洋ニ漂泊セシニ幸ニ神ノ恵ヲ以テ亜国
ノ船ニ逢ヒ此船中ノ人ニ扶助セラレテ亜国ニ
至リ大ヒニ亜人等ノ恵ヲ受ケテ今日ニ至レル
者ナリ然ルヲ今コレヲ日本ニ留メテ万一不仁
ノ法ニ行ハルハ時ハ常三八カ不幸ナルノミナ

ラス亦深ク亜人ノ心ヲ傷ラシメシ故ニ日本人
今三八ヲ受取ラントナラハ宜シク其方ニテ決
シテ三八ヲ待ツニ不仁ノ政道ヲ以テセズ諸君
三八ノ自由ヲ得セシメントノ證據ヲ立ツヘシ
然ラスシハ此三八ヲ其方ニ送り帰ス莫能ハス
ト云ヒケレハ日本人ノ云ヒケルニハ我カ方ニ
テ三八ヲ受取ラシ時ハ決シテ不仁ノ政ヲ以テ
コレヲ取扱フ莫ハ有ルヘカラシ諸君三八ノ意
ニ任セテ其自由ヲ得セシメ猶又其故郷ニ歸リ
テ郷里ノ父老旧知等ニ逢ハシトテモ許容スヘ

シト教言ヲ以テ三八ヲ罪セシトノ復ヲ請合タ
レハ是ニ於テ提督命ヲ下シ三八ヲ召シテ兩國
人會話ノ席ニ出シタルニ日本ノ官吏等コレヲ
見尊大ノ辞ヲ以テコレヲ呼ビ懸ケ三八ハ日本
人ノ如ク其兩膝ヲ屈シテ席上ニ拝伏セリ時ニ
我カ將官^{ミント}此^ト舩ヲ見テ三八ニ命シ我カ軍
艦中ニハ此ノ如キ礼式ナキニ依テ早速立居ス
ヘシト云ヒケレハ三八初メテ其首ヲ擧ケテ立
チアカレリ元来下賤ノ者共高貴ノ人ノ前ニ出
テ、低頭戰栗スルハ是日本ノ風習ナレハ今三

ハモ日本ノ官吏等ト公席ニ於テ面會セシ故ニ
斯ク戰栗怯弱ノ舩ヲ頭ハセルナリ叔亞船日本
海ニ滞居セシモ久シキナレニ其間ニ三八其
本国ニ帰ラシムハ一言モ云ハサラシヲ以テ熟
々其將來ノ復ヲ考ヘ且今日ノ舩式ヲ見テ三八
ノ行末ヲトスルニ吉度アラントモ思ハレサリ
ケリ初、三八日本海ヨリ漂流シテ亞船ニ逢ヒ水
夫ノ彼ヲ執テ居タリケルニ元来三八ハ善性ノ
者ナレハ諸人皆コレヲ憐ミテ仁惠ヲ施セリ中
ニモ法教ヲ信仰セルゴトフルト云ハル人ハ格

別三八ヲ憐ミ且三八カ性オアリテヨク夏物ヲ
聞知スルヲ好ムヲ以テ今三八ニ本国ノ夏ヲ
教ユル片ハ他日日本人ヲ化成スルノ一助トモ
ナラント思ヒケレハ其ヨリ三八ヲニウヨル
カノ家宅ニ置キコレニ師ヲ附シテ亜国ノ夏ヲ
学ハシメタルナリ然ルニ今三八亜国ノ夏ヲ習
ヒテ日本ニ帰ル時ハ実ニ日本人ヲ西土ノ風ニ
化成スルノ一助トナラシム疑ナシ夫三八宜シ
ク其匠人ニ聞知セル所ヲ以テコレヲ日本人ニ
示シ努力シテ亜国交友等ノ美声ヲ恢ニスヘキ

ナリ○日本海ヨリ漂流シテ亜国ノカールホルニ
ヤハ来着セル日本人數人アリケルヲ亞人好便
ヲ以テコレヲ日本ニ送り歸サントテ其漂客數
人ヲ亞船ニ載セテ支那ノ上海ニ送り置ケリ三
ハナル者ハ即チ其一人ナリ然ルニ以度提督日
本ニ航行スルニ依リテ以日本人等ヲ載セテ日
本ニ歸サントセシニ其日本人等皆本国ノ嚴刑
ニ行ハレシヲ恐レ日本ニ帰ル夏ヲ欲セスシ
テ遂ニ上海ニ留マリ唯三八ナル者一人恐惶戰
栗セスシテ獨提督ニ從ヒ来リシナリ又以亞国

ノ諸船本国ノ帰帆ノ時「スシツピ」船支那ノ
上海ニ過キリケレハ上海ニ居タル日本人「ダン
スケ」井ツケト云ケル壯年ノ者亞国ニ往カン度
ヲ願ヒ「スシツピ」船ニ乘リテ亞国ニ至レリ
然ルニ此船中ノ水夫等此人ヲ呼テ「ダンケ」ト
云ヒ又「アメリカ」ガヤツパン。ケイトモ云ヘリ
此者既ニ亞国ニ至リタル処ニテ亞国ニテ此者
ニ罪人ヲ取扱フ官職ヲ援ケントセシカトモ此
者未其職務ヲ解セスシテ其官ヲ辞セリ此者元
来才氣アリテ学ヲ好ミ其後大ニ提督ノ恩惠ヲ

受ケ居レリ此者追々其学ヲ進メ亞国ノ度ニ習
ヒテ日本ニ帰国セハ必スヨク亞国ノ度ヲ其国
人ニ説示メ亞土ノ説ヲ弘ムヘシ。去程ニ提督
「ハポ」ハタン船ヨリ移リテ「スシツピ」船ニ
居リ入用ノ諸物ヲ悉ク「ハポ」ハタンヨリ此船ニ
運ヒ兩船共ニ下田ノ外港ニ出テ、此処ニ碇泊
シ本国ノ帰帆スルノ用意ヲ急キタリ斯ル処ニ
森山栄之助日本ノ官人等数輩ト共ニ提督カ船
中ニ来リテ別レテ告ケ且諸物勘定ノ書記ヲ持
参ノ提督ニ示シ又栄之助ヨリ贈物トノ一物ヲ

持参セリ其ヨリ提督船中ニ酒宴ヲ設ケテ日本
人等ヲ饗シ酒半酣ニテ提督一片ノ画紙ヲ出シ
是ヲ森山ニ示シテ曰ク此画紙ハ我カ属将某ナ
ル者下田ノ市中ニ於テ得タル所ニト森山是ヲ
見レハ其紙片ハ即チ罪人ノ磔柱ニ上リ居タル
形状ヲ画キタル者ニ其ヨリ提督日本ノ刑法ノ
度ヲ語り磔刑ナトノヲ森山ニ問ヒタル故ニ
森山具サニ其度ヲ提督ニ語りケレハ提督此度
ヲ聞キテ大ニ悦テ曰クケムフル氏以来日本ノ
度ヲ言フ者皆日本ニテ近來ハ磔刑ノ法ヲ除ケ

リト云ヒタルニ今公ノ言ヲ聞テ始テ日本ニハ
今ニ猶此刑法アルヲ知レリト時ニ森山ノ曰ク
此画ハ我カ国ノ芝居ノ度ヲ画カキタル画ナリ
而シテ此刑ハ殺逆等ノ罪人ヲ誅殺スルノ法ニシ
我カ国ニハ絞溢等ノ刑法ナシト提督又森山ニ
問テ曰ク日本ニテ武士タル者死刑ヲ受クルニ
自殺ノ命ヲ受クルヲ以テ武士ノ名誉トスル風
習アリト聞キタルカ此風習今モ猶是アリヤト
森山答ヘテ曰ク是アリ先達テモ長崎ニ於テ一
人ノ通辨官罪アリテ自殺セリト提督又曰ク先

年船將官^ポーロ^シ長崎^ニ来^レル^キ長崎奉行
ノ自殺セルト云^ハル^ハ信ナルヤト森山カ曰ク
此^ニ莫^ニ是^{アリ}且^以時自殺セル者ハ唯長崎奉
行ノミナラスニ^ノ高官人ナラヒ^ニ其僕従等十
人皆共ニ切腹セリト斯クテ西国人段々會話ヲ
ナセル処ニテ日本人^ニ向^ヒ暑氣ヲ折角凌
カル^ハシト^ノ挨拶ヲナシテ歸リ去レリ^ノ斯ク
テ^ニ亞船帰帆ノ用意漸ク^ニ整^ヒケレ^ハソ^ハン
ト^シ船^ニ石炭ヲ積ミ入^レテ^ニ蒸氣船ノ航行^ニ備
^ハ提督ノ居船^ミス^シツ^ピ^シ初^メト^メポ^ハ

タ^シソ^ハン^トシ^ヤプレ^マセ^トニ^シノ^五
艘其陣列ヲ担立テ^ハ下田ノ外港^ニ排列セリ^ソ
^ハシ^トシ^船ハ^ホル^カノ^ヨリ^六月^十日^ニ下田
^ニ到着^シマ^セド^ニシ^船ハ^六月^十一^日ヲ^以テ
下田^ニ至^リシ^ヤプレ^船ハ^先達^テヨ^リ以^テ港内^ニ
碇泊セル者ナリ^ノ以^時日本ノ官吏黒川嘉兵衛
亞人ト諷シ下田港ノ港師ノ莫ヲ定メ^タリ^港師
ト^ハ即^チ港内ノ案内者ナリ
下田港ノ港師ノ莫並ニ薪水ヲ亞船ニ送ル
ノ莫ニ付キ西国人ノ約定左ノ如シ

下田ノ海岸ニ於テ洋外ヨリ衆来ル舟船ヲ見
届ケンカ為ニ便利ナル場所ヲ見立テ、遠見
ノ邏樓ヲ置キ下田港ニ向ヒテ来ルヲ見ル片
ハ速ニ其由ヲ官吏ニ注進ス是ニ於テ官吏令
ヲ下シ港師ヲシテ小舟ニ乘リテ亞船ノ方ニ
往カシム。故ニ下田ニ於テ常ニ数艘ノ舟
ヲ裝艦シ港師諸用意ヲ整ヘテ亞船ノ来ルヲ
待テ亞船ノ来ル者アレハ速ニ其舟ニ乘リテ
下田港ノ前ナル「ロツカ島」ノ辺ニ至リ其亞船
港内ニ入ラシ者カ入サル者カヲ吟味スヘシ

扱其亞船入港スル者ナル時ハ直チニ進シテ
其船ニ入りコレヲ案内シテ安全ナル碇泊所
ニ導キコレニ暗礁等指示ヲシテ其船ノ危難
アルヲ無カラシメ且其船ノ碇泊中ハ港師
常ニ其船ニ諸度ヲ教告メ亞人ノ便利ヲ得セ
シムヘシ。又港師ノ案内金ハ来泊スル亞船
ノ大小ニ從ヒテ多少ノ差別アリ先其船脚海
水ニ入ル「ト」以上ノ大船ナレハ又
案内金ヲ十五「ドル」ト定ム又船脚ノ水ニ
入ル「ト」十三「ブ」ト以上ノ船ナレハコレヲ十

ドルラルトトシ十三フート以下ノ船ナレハ五
ドルラルトト定ム。此案内金ハ金銀或ハ錢等
ヲ以テ其價ヲ拂ヒ且入津ノ案内金ハ必ス入
津ノ前ニ是ヲ港師ニ与ヘ出港ノ案内金モ出
港ノ前ニコレヲ与フヘシ。若又亞船港師ノ
案内ヲ受クルト虽モ其船深ク港内ニ入ラス
シテ港外ニ碇泊スル片ハ港師ノ案内金其半
ヲ減スルヲ以テ定法トス。又下田港ニ来泊
スル舟船ニ用水ヲ給スル時ハ一小舟ニ水ヲ
載セテコレヲ一千四百錢ニ賣ル又船中ニ薪

木ヲ送ル時ハ五フート立方ノ薪木ニテ其價
ヲ七千二百錢ト定ム

水師副將官 シラス。ベント
下田長率次官 黒川嘉兵衛

水師提督兼日本使節彼理コレヲ撰定ス
千八百五十四年六月二十三日日本下田港
ニ於テ亞国ノ書記官コレヲミスシツピ
船中ニ書ス

以テ下田港ノ港師ト定メ亞船ノ以港ヲ出
以テ其價ヲ拂ヒ且入津ノ案内金ハ必ス入
津ノ前ニ是ヲ港師ニ与ヘ出港ノ案内金モ出
港ノ前ニコレヲ与フヘシ。若又亞船港師ノ
案内ヲ受クルト虽モ其船深ク港内ニ入ラス
シテ港外ニ碇泊スル片ハ港師ノ案内金其半
ヲ減スルヲ以テ定法トス。又下田港ニ来泊
スル舟船ニ用水ヲ給スル時ハ一小舟ニ水ヲ
載セテコレヲ一千四百錢ニ賣ル又船中ニ薪
木ヲ送ル時ハ五フート立方ノ薪木ニテ其價
ヲ七千二百錢ト定ム

入スルニ備ヘタリコレニ依テ其案内金ヲ定
ムル莫則左ノ如シ

船脚ノ水中ニ入ル莫十八フット以上ナル
大船ナル時ハ其案内金ヲ十五ドルラルト
定ム

十三フット以上ナル船ハ十ドルラルト定
ム
十三フット以下ノ船ニハ五ドルラルト定
ム

若又亞船港内ニ入ラスシテ港外ニ居ル時ハ港

師ノ案内金其半ヲ減ス且其價ハ金銀錢何ニテ
モコレヲ拂フ莫ヲ得ヘシ

水師提督兼日本使節彼理コレヲ撰定ス
シラス。ベント

千八百五十四年六月二十二日日本下田港
ニ於テ亞国ノ書記官コレヲシスシツピ

船中ニ書ス
叔日本ニテ典八等三人ヲ下田ノ港師ト定メタ

ル由ニテ提督ニ謁見セシメタリケレハ提督コ
レニ望遠鏡ヲ典テ下田ノ海岸ヨリ亞船ノ来ル

前章三六頁
トアリ改章ニハサ
二日トアリ如何

ヲ遠鏡スルニ便ナラシメ又一片ノ旗幟ヲ典ハ
港師等小舟ニテ匪船ヲ出迎フル時ハ此旗幟ヲ
以テ其小舟ニ樹ツヘシト云ヘリ又提督下田港
ノ暗礁岩石險岸等ニ悉ク亞国ノ旗ヲ樹テ以
テ舟船ノ險難ヲ表セント欲セシカトモ日本人
ハ其領地ニ外国ノ旗幟ヲ樹ツルヲ嫌ヒテ此説
ヲ拒キ日本ノ旗幟ヲ以テコレニ易ヘシト云ヘ
リ〇千八百五十四年六月二十八日提督諸船ヲ
引テ下田ヲ出帆シケルニ時ニ海風俄ニ変シテ
逆風トナリケレハ「マセドニ」ニシヤブレ等ハ蒸

気船ニアラサルヲ以テコレニ逆フテ出帆シ難
キヲ以テ再ヒ此処ニ碇泊セリ蒸気船「ミスシ」
「ピ」ボ「ハ」タ「ン」ハ此船ニ先立テ前路ニ進ミッ
「ト」ハ「ン」ト「ン」ハ石炭ヲ積ミ置キタル船ナレハコ
レヲモ引連レテ都合三艘下田港ヲ出テホルモ
「サ」ノ「ケ」ル「ン」ニ於テ其余ノ二船ヲ待合セント約
シ西南ノ方ニ向テ舟路ヲ取り口ツカ島子本
「リ」ナノ辺ヲ過キ「ト」ヒ「ル」ド岩ノ狀ヲ吟味
シ其ヨリ舟路ヲ大島按スルニ薩州ノ辺ナル大
ノ東北クニ取レリ此大島ノ西岸ノ形勢及ヒ其

辺ノ諸小島ヲハ去年日本海ニ来リシ時ニ其吟
味ヲ遂ケタルナレハ此度ハ其東方ノ形勢ヲ吟
味セントテ六月二十九日ニ大島ノ東岸ニ至リ
其形勢風景等ヲ委細ニ検索シ又大島ト鬼界ケ
島トノ間ヲ漕行キテ其辺ノ諸島及ヒ暗礁等ヲ
吟味セリ扱是迄此辺ヲ航行スル者ハ皆法朗西
ノモ¹ンシール²ゴイレン³氏ノ著シタル地圖ニ
據リテ其形勢ヲ考へタルカ此度我等此辺ノ形
勢トゴイレン⁴氏ノ地圖ヲ見合セタルニ稍間違
ヒタル所モアレハ我等能ク吟味ヲ遂ケテ此地

図ヲ改正セリ新クテ提督此辺ノ様子ヲ委細ニ
吟味セル後ニ船將官¹マウレ²ウイ³ップ⁴ノ二人ニ命
シ小舟ニテ大島ノ小港ヲ窺ハシメタルニ此両
將直ニ其小港ニ入りテ上陸シケレハ其海岸ニ
小村アリテ土人等鉄砲ナトヲ持テ出来レリ然
レトモ其土人等取テ巫人ヲ拒カントスルニモ
非ス雜及ヒ野菜等ヲ持參シテ我カ方バ¹ン²ナト
ト貿易セリ其ヨリ此両將モ別條ナクシテ帰来
レリ然レハ兩將ノ此地ニ上陸セルハ外国人ノ
大島ニ上陸セル始トセリ是ヨリ我カ諸船大琉

球ノ方ニ向ヒテ進ミ其翌日モ亦此方向ニテ進
ミ行キタルニ偶我カ船ヲ隔タルヲ五十里許ニ
シテ一艘ノ異船北方ニ走ル者アルヲ見タリ是
ニ於テ我カ船コレニ近寄ラントシタリケレハ
其船忽其船路ヲ変シテ我カ船ヲ避ケントセル
跡ニ見ハタル故ニ提督小銃ニ発ヲ放タシメテ
我カ船ニ近寄ルヘシトノ合図ヲナセリ其ヨリ
兩船相近付タル処ニテ我カ一船將ヲ遣シテ其
様子ヲ問ハシメタルニ此船英吉利船ニシテ此
度上海ヨリ本国ニ通行スルノ由ヲ知レリ且英

船ノ將官臣人ニ謂テ曰ク只今英国ト魯西亞ト
戦争ノ最中ナルヲ以テ今臣国ノ船ヲ魯船ト誤
リ大ニ驚キテコレヲ避ケントセシナリ然ルニ
臣船ニテ我等大ニ安心セリト且此英將ヨリ英
国紙ヲ提督ニ贈リテ以テ其交情ヲ修メタリ其
ヨリ提督ソノハントシ船ヲ遣シテ香港ニ赴カ
シメニ一艘ノ蒸気船ヲ督シ琉球ノ那霸港ニ入り
テ此処ニ碇治セリ時ニ午八百五十四年七月一
日ナリ提督ノ下田ヲ発セシ時ニ「マセドニ」シ
シヤプルノ兩船ハ逆風ノ為ニ出帆スルヲ能ハ

スレテ提督ニ後レタルカ其後程ナクモテ以而
船モ亦下田ヲ出帆セリ

彼理日本紀行卷ノ二十四終



